

ISTA 2019 に参加して

整形外科学教室 大学院3年 岡吉 倫弘（平成24年入局）

2019年10月2日から5日までカナダのトロントで開催された32nd Annual Congress of International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA) に指導医の岡本純典先生と参加してきました。

私は、昨年のイギリスのロンドンで行われたISTAで発表を行った若間先生と平成24年入局の同期ですが、1年遅れで大学院に帰学しました。現在、人工関節チームの指導医の岡本先生のもと、若間先生の研究テーマの続きとなる人工膝関節置換術の軟部バランスと術後成績に関する研究を行っています。

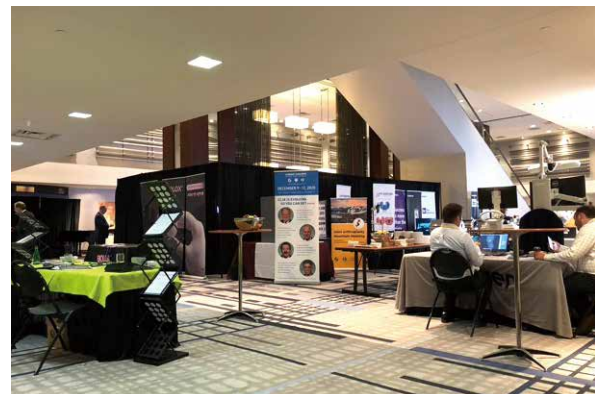
私自身、国際学会への参加は初めてで、英語は最大の苦手であります。抄録やスライドを作成の際には指導医の岡本純典先生を始め、多くの先生方にご指導いただき大変有り難うございました。そのおかげもあってISTAでの発表は口演での採択をいただきました。思いもよらない口演での採択に、最初は驚きましたが、自分の研究内容に世界が興味を示してくれたのだと考え、大学の名前を背負いしっかり発表しようと思いました。

昨年ISTAで発表した若間先生も当初出席予定であり、岡本純典先生と3人でのカナダへの渡航ということで、ある程度安心感をもって準備していました。しかしながら、若間先生は自分の論文の執筆のためISTA参加を見送り、岡本先生は自分が予約した飛行機とは違うルートで行くことを聞かされ、急遽一人で学会場まで行くことになりました。正直最初は非常に焦りましたが、今となってはこの状況があったからこそ、国際学会での発表がより有意義でかけがえのない経験となったと考えております。

一人でトロントに到着し、一度も行ったことのない



岡本先生と学会場にて



企業展示ブースの様子

い土地の電車の切符を買い、スマホを片手にどうか宿泊先のホテルに到着したときの気持ちは今でも忘れません。どこで夕食を食べたらいいかも分からず、近くにセブンイレブンがあったのでサンドイッチらしきものを買って、店員にそこのレンジで温めるといいよと言われた気がしましたが、間違えていたらどうしようと思い、ダッシュでホテルに帰って



到着日 トロントのユニオン駅にて

そのまま食べたのを今でも鮮明に覚えています。トロントは比較的治安がよい場所とは知っていましたが、学会場のホテルについた時にやっと安全なところにたどりついたら安堵の気持ちでいっぱいでした。今となってはいい思い出です。

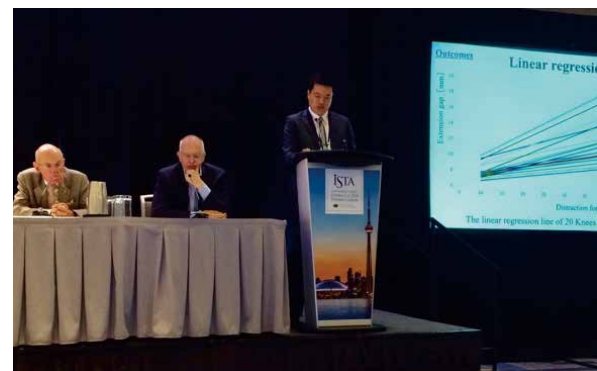
発表は学会2日目でしたが、初日のうちに岡本先生と合流していたため、一緒にPCセンターでスライドの登録を手伝っていただき、晩ご飯を一緒に食べ翌日に備えて早く寝ました。翌日に発表を控えていたのであまり食事の味は覚えていませんが、とにかく岡本先生と一緒に安心したのを覚えています。翌日は朝から学会場に行き、他の発表を聞きながら自分のスライドのチェックをして何度か修正を行い、本番に臨みました。

演題名は“Influence of soft tissue balancing with continuous determination of distraction force on Patient-Reported Outcome Measures after total knee arthroplasty”でTKA後の術後成績に関する演題でした。近年、人工膝関節置換術に限らず、整形外科疾患の術後成績の中でも患者立脚評価が非常に注目されていることは多くの文献から予想はしていましたが、自分の発表が口演になるほど患者立脚型評価に対して世界が注目していることを改めて実感しました。

さて、本番です。まずはしっかり発表して、聞き

取れるか分からないが質問にも頑張って答えようと意気込み座長の先生に呼ばれ、登壇し、いざ発表しようとなりました。すると、会場の奥の方からPC係の人が“Hey!! Your slide is not here! Do you have flash memory??”と聞かれ、完全に予想外の展開に大パニックです。あれだけPCセンターで今日の午前中に何度も確認したのになぜ??と思いつつも、どうにかPC係の質問は聞き取れたので“Yes. I have my flash memory! Here you are.”と言ってパソコン係にデータを渡して、壇上に戻り無事発表を終えました。このやり取りのせいで発表中は全く緊張しませんでした。質問はシンポジウム形式でまとめて後で聞かれる形式でしたが、僕の発表が最後でかつ長引いたことと、後ろにAwardのセッションが控えていたこともあり僕に対する質問はありませんでした。結局何も質問されなかったと、今原稿を書きながら思い出していましたが、そういえば“Hey!! Your slide is not here! Do you have flash memory??”の質問をきちんと聞き取ることができ、かつ対応できてよかったと実感しております。原因は今でも不明ですが、国際学会ではスライドのチェックや修正のために共用のパソコンを触るのは自由であり、セキュリティもないため誰かが消したのではないかと考えています。これから国際学会で初めて発表する大学院生はUSBをもって壇上に上がることをお勧めします。

観光の話をする、トロントと言えば近くにナイアガラの滝があるため、トロントに来たのであれば



発表の様子

国際学会に参加して

行くしかないと岡本先生と話をしていました。学会2日目は僕も岡本先生も発表があり岡本先生は夕方から座長があったため、初日の昼から一緒にナイアガラ滝を見に行く予定としていましたが、あいにくの雨にて結局行くことができませんでした。翌日、発表が終わった私は、この2日で多くのことを経験しすぎてどこにでも行けそうな気がしたので、一人でホテルの近くのトロント市庁舎と近くのショッピングモールを訪れました。落ち着いて見てみるとトロントの街は非常に綺麗で、魅力的な街であり、また来てみたいと思わせてくれる街でした。最終日は岡本先生と会場にて合流し、一緒に駅までスーツケースを引きずり同じ電車に乗って空港へ行き、同じ飛行機に乗って帰国しました。

国際学会で発表することは不安や緊張がなく、自分にできるのであろうかと最初は躊躇していた私ですが、一人でトロントまで行き、学会に参加し発表してきたからこそ、失敗も含め多くのかけがえの無い経験をすることができました。さらに世界を肌で感じることで、世界の現在地、そして自分の現在地や研究の方向性、目標を再認識することができました。大学院に帰学したのであれば、国際学会に行かない理由はないと今は胸を張って断言できます。

最後になりますが、指導医の岡本純典先生にはこのような貴重な国際学会での発表の機会を与えて、さらに支えてくださり深く感謝しております。また、岡本先生含め、諸先生方もご多忙の中ご指導いただき誠に有り難うございました。今後は、世界が興味をもってくれた研究内容を世界に発信できるように英語論文の執筆に勤しみ、採択されるように努力していきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



トロント市庁舎前にて



近隣のショッピングモール